

新斎場利用圏における葬儀等について

1. 趣旨

P F Iによる新斎場の整備・運営事業の実施にあたり，応募者が設計や運営・維持管理等の提案内容を企画する際の参考として，新斎場（火葬場，式場）利用の観点から，本市及びその近郊における葬儀等についてまとめたものです。

2. 市施設等の利用における宗旨の割合

市斎場の式場利用や民間葬祭業者への聞き取り調査などを勘案すると，多少の地域差はあるものの，市施設又は民間式場においては，通夜や葬儀の約7割から8割が仏式で，約2割弱が神式により執り行われています。

3. 一般的な葬儀等の流れ

市施設等の利用において，割合が最も多い仏式の一般的な葬儀等の流れは，次のとおりですが，宗派等により異なるケースもあります。

また，神式における葬儀等の流れにおいても，仏式とほぼ同様となるようです。

(1) 通夜

① 通夜式

- ・ 午後6時から開始するご希望が多く，式は概ね40分から50分程度となります。
- ・ 会葬者の受付は式の約60分前から開始するケースが多く見受けられます。
- ・ 導師による読経後，遺族，会葬者の順に焼香を行い，喪主等の挨拶で式が終了となります。
- ・ 一般の会葬者も式場内に着席し式終了時まで参列します。

② 通夜振る舞い

- ・ 通夜式終了後，喪主から親族，故人と親しい会葬者及び組内の方々へオードブル形式の料理と酒類等が供され，概ね90分程度の通夜振る舞いが多いようです。
- ・ 一般の会葬者の多くは通夜振る舞いを辞するケースが多いようです。

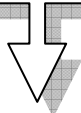
組内：自治会などの下に設けられた地域住民組織(自治会により区制や班制)の総称で，受付や導師の送迎などの協力等をするケースが多々あります。

③ 通夜の滞在

- ・ 宗派により異なりますが，故人を偲びながら，徹夜で蠟燭の火と線香を絶やさないようにするという考え方から，通夜式後に遺族が滞在するケースも多いようです。
- ・ 民間葬祭業者の式場で通夜式を執り行う場合，5～6名の遺族が滞在するケースが多く，夜間に遺族の出入りもあるようです。

□ 設計，運営等にあたっての参考事項

- * 通夜式の必要駐車台数
式場収容規模の80%程度の駐車台数を想定
- * 通夜振る舞いの時の人数
一般会葬者は通夜振る舞いを辞す場合が多いことから，遺族等の40人程度と想定
遺族控え室との兼用を想定
- * 通夜時の棺
遺族が滞在する通夜控え室への移動を想定
- * 通夜時の滞在
市斎場では，現在，夜間の滞在はできませんが，新斎場では5～6名の滞在を想定



(2) 葬儀・告別の儀～出棺

① 葬儀・告別の儀

- ・会葬者の受付は、式開始の概ね60分前から開始するケースが多く見受けられます。
- ・導師による読経後、遺族、会葬者の順に焼香を行い、葬儀終了となります。
- ・遺族や導師のご意向などにより異なりますが、葬儀終了後に初七日法要や三十五日法要などを併せて行うケースもあります。
- ・その後、告別の儀に移り、遺族と故人と親しい会葬者が祭壇の生花や故人にゆかりのあるものなどを棺の中に供え、最後のお別れをします。
- ・最後のお別れまで、概ね60分程度の式が多く、一般の会葬者も式場内に着席して式終了時まで参列します。

② 出棺

- ・最後の対面が終わると棺に釘を打ち（釘を打たない場合もあります）、喪主等の挨拶後、出棺となります。
- ・参列された一般会葬者の方も式場の外(ロビー等)で棺のお見送りをします。

□ 設計、運営等にあたっての参考事項

- * 葬儀等での必要駐車台数
通夜式の場合と同じ
- * 会葬者の焼香時
喪主、遺族が祭壇脇に立ち、会葬者への返礼を行うことが多いことから、遺族、会葬者席と祭壇の間に一定のスペースが必要
- * 副葬品
現施設の利用にあたり遺族、葬祭業者等に自粛をお願いしており、新斎場においても同様の措置を行う予定

(3) 火葬（現施設での状況）※

※ 現施設での制約がある中での流れとなります。（例：独立した十分な告別や収骨スペースがありませんので、棺を火葬炉に納めた後、炉前で焼香等が行われています。）

① 棺の到着～告別（最後の対面）

- ・火葬場到着後、受付窓口にて火葬許可証を提出いただきます。（葬祭業者または組内の方が手続きされる場合が多いようです。）
- ・火葬炉前のホールに棺が安置され、棺の窓を開けることなどで最後の対面をした後、棺を火葬炉に納めます。
- ・炉前スペースに位牌、遺影、生花一對などが飾られます。
- ・ほとんどのケースで導師が同行されていますので、短い読経と遺族の焼香が行われます。（読経の際に木魚やリンなどを使用される場合もあります。）

② 火葬中

- ・遺族は待合室に移動し、収骨の準備が整うまで、お待ちいただきます。
- ・待合室では、一般的におつまみと酒類等が供されますが、火葬の時刻によっては、すし折なども供されています。
- ・また、近年では、待合の時間を利用して精進落としを行うケースもあります。

③ 収骨

- ・収骨の準備が整い次第、遺族に収骨スペースにお集まりいただき、二人箸でお骨を骨壺に納めていただきます。
- ・収骨後、遺族等に受付窓口で火葬済証（火葬許可証）を交付します。

□ 設計、運営等にあたっての参考事項

- * 希望の多い火葬時間帯
火葬予約でご希望が最も多い時間帯は午前11時から午後1時
- * 遺族等の数(火葬1件あたり)
地域差はありますが、概ね40人程度を想定
- * 霊柩車以外の来場台数(火葬1件あたり)
平均で普通車5台、バス(マイクロ、中型)1.1台を想定
- * 告別(最後の対面)、収骨に要する時間
現施設では双方とも概ね10分から15分
- * 備品等
現施設では遺影立て、花立て、焼香卓、香炉、抹香を用意
新斎場でもSPC側での用意を想定

(4) 火葬後

①法要（納骨）

- ・火葬終了後に初七日法要や三十五日法要などを行い、葬儀当日に納骨する場合も多くあります。

②精進落とし

- ・法要等の後、親族や組内などの労をねぎらうため、「精進落とし」が行われています。

□設計、運営等にあたっての
参考事項

*市では、火葬後の施設利用は
想定していません。